

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 凌雲福祉会	代表者	稲次 正敬	法人・事業所の特徴	住み慣れた地域・自宅での暮らしが維持できるよう、「通い」利用を中心に、利用者・家族の態に応じ「訪問」「宿泊」を組み合わせ24時間・365日固定された時間にこだわらず、一人ひとりの生活に合わせ臨機応変に対応し、その人らしい生活、暮らし方が継続できるよう、一日の決められた日程等を設けることなく、家事活動を中心に利用者の持っている意欲、力を引き出し生きがいの持てる暮らしを目指しています。私たちは、可能な限り在宅で暮らすこと、最期までその人らしい人生を送っていただけるよう、その人の思いと願いを大切にした支援・サービスを提供しています。
事業所名	小規模多機能ホーム 親の家	管理者	西浦 佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	11人	1人	人	8人	人	15人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			特に意見なし	ミーティングなどで得た情報を職員間で共有し、よりよい支援に繋げる。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナ禍でも出来る取り組みは何か、地域との協働できることは何か考える。	コロナ禍で出来る事に限りがある中で、より良く過ごして頂けるよう環境作りが出来た。	特に意見なし	感染拡大が広がる中、感染対策を徹底し利用者に快適に過ごして頂けるよう、環境作りに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	地域資源について今以上に把握して関わりを深める。 自宅での生活スタイルの把握、人間関係の把握など家族様からの情報を知る。	送迎時など家族様との会話を通じて情報を得る事ができた。 地域資源については、深めることが出来なかった。	地域資源について今以上に関わりを深める。 自宅での生活スタイルの把握、人間関係の把握など家族様からの情報で知る。	送迎時や家族様とお会いする機会がある時には、家での状態や状況など、家族様からお話をお聞きする事が出来たので継続する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	コロナ禍でも、地域との関わりを見つける。	コロナ感染拡大の為、制限がある中、感染対策をし住み慣れた地域での散歩など行えた。 行事などの参加は出来なかった。	コロナ禍でも出来る取り組みは何か、地域との協働出来ることは何か考える。	コロナ禍であっても感染対策を行い、ドライブや散歩など、利用者が有意義に過ごせるように支援する。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	コロナ禍でも出来る取り組みは何か、地域との協働出来ることは何か考える。	書面開催での運営推進会議にて、地域の方からや家族様からの意見など、情報を得る事ができた。	特に意見なし	コロナ感染拡大の為、書面での開催などに変更になったが、家族様からの意見など反映し職員間での話し合いに繋げる。
F. 事業所の防災・災害対策	コロナ禍での災害を想定し、感染対策を考えた避難訓練など考える。	コロナ禍でも感染対策をし、避難訓練を実施する事が出来た。	グループ内での研修会には確実に参加出来るようにする。 ヒヤリハット報告、入力を忘れず、情報の共有に努める。	事業所内でコロナ禍でも、感染対策をし避難訓練を開催する。